

湿原に乱れ咲く花々

研修旅行尾瀬コース同行記

曾田 震五

七月二十七日、中国地区十二名(山口七、高知五、愛知二)女性ばかりの団に同行、上野駅から沼田まで「くたか一号」に乗車、戸倉で下車、そこからバスで鳩待峠まで行く。途中山道に入り、道路工事のジャリ道の悪路、運転手は馴れたものの、一時間あまりで着く。ここから徒歩の旅となる。心配していた天候はあましくなってきた。一回元氣よく、木道のある石のついでに坂道を下る。

笠料川に沿って木道は続いていく。木道は広やかで新しいのと取り替えて、滑らないよう板を打ち付けている作業中であった。木道の両側は熊笹が茂り、樹林の間から溪流の音と清流を眺めながら、うへへすのすの鳴き声が聞こえる。のんびりと歌でも唄いながら、俗塵をばらけのけて歩ける楽しい山道である。雲行きが悪くなってきた。展示場のある休憩所で、ビールコート、アノック、傘とか思い出し立ち止まる。

小憩の後出発、雨はポツポツ降り始めた。木道を滑らないように歩く。約半時間後雨も小降りになった。待望の尾瀬湖原に出た。みな口から思わず「お、お、お、お」と叫び出した。今日の日は「お」と声をかける。からりと視野は開けた。小雨の中、燦爛に雲ははかり、湿原にはモヤが立ちこめている。木道の小きく可憐な花を咲かせている。近くにはカキツバタ、その奥にミカヅキ草の群生が見られる。写真を撮る。西側の湿原、花のあととこころやたらと写真を撮る。夏の下旬花の王者はなんといっても日光キスゲである。湿原の至るところ満開である。まさしく黄金の帯が幾重にも並んでいる。花



キッコウキスゲの咲く尾瀬

湿度も少なく肌も爽やかである。夕食はカレー料理のセルフサービス、夕食後尾瀬湖の映画、スライドを見る。大いに事前学習になった。消灯八時半、講師、団長を含め男部屋八名。

第二日七時出発、近畿相互の団と合流、総勢三十名ばかり、講師を先頭に木道を一列にならべて歩く。講師は木道近くのどんな花にも簡潔な説明をされる。聞き馴れない名前が多々とも覚えられない。高地のせいか一般に花は小ぶりのものが多い。段小屋坂の木の道の坂道を登る。木道は腐蝕したもの多く登りにくい。団員はフーイ言いがたも遅れまいとして頑張り、四十から六十歳の女性が多々くぐり登るわけだが、途中ヤンググループの重い荷物をいっしょに積んだ自乗車隊に出遭う。さすが若者だと感心する。少し下り坂の山道を越え、冷水、白砂原に出た。尾瀬湖原同僚月

対岸の燦爛、尾瀬湖一帯に立ちの休憩所でヨシのある尾瀬湖の風景を写真におさめる。山道を登り降りして急に湿原に出た時日光キスゲ満開の風景を接する。なんともいえず爽快さを感じる。長蔵小屋まで尾瀬湖原をカカバを背にして木道の山道に入り大清水に向かう。三平峠を過ぎ、片品川の渓流を林間に見ながら進む。木道も程なく終り、樹林のある熊笹の道を爽やかに下る。

一瀬休憩所で小休止、橋の下におり溪流の美しさに見入りしばし疲れを休める。ここから大清水まで広いジャリ道を太陽の光りまでも受けて歩くが、正午前清水に着いた。無料休憩所で昼食のむすび弁当にけん汁のうまかったこと、三日目のコーヒーにありつけたことが旅の疲れが一度にとれた思い。後は一路バスで鬼怒川に向かう。

思うに四季折々に花のかわる尾瀬の自然、それを守るため、守る会の人たちが、木道しか歩かせず、汚水をばらまかず、不燃物は持ち帰り等厳しい規正をしているが、やはり年々湿原がそこなわれている。このすばらしい尾瀬の自然に季節をかえても一度訪れたいものである。(全修協・大阪事務所長・写真も)

吉野山の謎

< 3 >

持統天皇は吉野への道を飛鳥川沿いにとった。飛鳥川は神宿る聖なる川であり、その淵源を探るうとするのは自然の感情である。その淵源にいたり、倭の国と吉野の国とをへたる分水嶺、おわち水の神鎮まる「水分の山」で

た、水分山は吉野宮の神奈備山ではなかったかと私は想像する。天武天皇の地を象徴の興、広瀬の地だとする五采重博士の説に耳を傾けたい。

神宿る聖なる飛鳥川

桐井雅行

万葉集における「拓枝」「美穂」「伝承、倭風歌における仙境として吉野は登場する。赤駒の腹はう田井を都と化したような、大和平部から見ても、吉野は深い巖を重なり、森林に覆われ、吉野川が蛇行して、しかも水量豊かに流れてきたのであろう。宮澤では川幅も狭まっていき、返って岩を噛み、あまのこは智恵をなしてつたといひあまのこ。

この自然の光景を万葉人は「激(たけ)の都」と歌い、後世「宮屋の珠山樹がそれを物語って、い

いらっしやいませ

びわ湖国定公園 近江路の旅へ

収容 600名様
浴場 150名様
設備 全館冷暖房
防炎 諸設備完備
駐車場 バス20台

政府登録 国際観光旅館 **びわ湖ツーリスト・ホテル**

大津市におの浜3丁目2-25 電話 大津(0775)24-2321

高原の四季・静かな憩い

「女神湖ホテル」から霧ヶ峰をぬけて旧中仙道で山を下りた。木曾もいいが、山を下って追分までの中仙道の宿場の風情はわざとらしさが無くて、しかも世の中のうっかりかわりを感じさせるところが好きだ。

永 六輔

「終りのない旅」より

女神湖ホテル

〒384-23 長野県北佐久郡立科町声田 電話 02675-5-6006

案内所 東京：千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル 電話03-591-8844

大阪：北区小松原町2-4-7 フコク生命 電話06-312-8988

チロル風のホテルは仲良し8人が一緒です。

集団生活の安全管理と宿泊の生徒さんの自主管理の両面から入念に設計された《スズカビレッジ》

2人で1台実物のエンジンを分解・組立てる
250名収容のテクニカルホールの生きた科学教育。
空へ、水へ、緑の中へ…自分でハンドルを握る「ゆうえんち」。
国際レーシングコースを走るレーサー気分も……
そして陽の落ちた広場でファイアーストームを囲んで
校歌を歌うひととき——
チロル風ビレッジの一夜、翌朝伊勢湾から昇る朝日も
忘れがたいもの、どれを取っても
学生生活を刻んだキラリと光るひとコマです。

昨年一年間で11万人もの学生さんがこの思い出深い修学旅行を体験しています
「人と科学と自然の接点」
今年の修学旅行こそスズカを加えた《新近畿ルート》をご検討ください。
スズカから京・奈良・伊勢・志摩へも2時間の距離
未来と過去を結び理想の修学旅行コースです。
陽気なビッグ・レジャーランド

鈴鹿サーキット 三重県鈴鹿市稲生町 電話=0593(78)1111

本社：東京都中央区八重洲2-6-20 ☎03(274)5821
大阪営業所：大阪府北区芝田町2-1-1 ☎06(372)1526